

Cure and Care  
communication

第87号

## コミュニケーション



医療法人ピーアイエー

ナカムラ病院

介護老人保健施設  
まいえ  
グループホーム  
つばい

社会福祉法人 双樹会

特別養護老人ホーム

陽光の家

通所介護事業所  
訪問介護事業所  
居宅介護支援事業所発行所 〒731-5142 広島市佐伯区坪井三丁目818-1  
Tel.082-923-8333(代) http://www.pia-gr.or.jp/

## 新年ご挨拶

新年あけましておめでとうござ  
います。

皆さまにおかれましては、新し  
い気持ちで新年を迎えられたこと  
とお喜び申し上げます。また、日  
頃から当院の運営に際しまして、  
地域の皆さま、関係医療機関、関  
係介護機関の皆さまにご支援いた  
だき感謝申し上げます。

さて、十年後二〇二五年には団  
塊の世代が七十五歳以上となり、  
三人に一人が六十五歳以上、五人  
に一人が七十五歳以上となりま  
す。今後、高齢化が進むと医療や  
介護を必要とする人がますます増  
加し、現行の医療介護サービスで  
は十分に対応できないと予測され  
ます。そこで国は、医療・介護サー  
ビスの提供体制の改革をスタート  
させました。

改革の主体は二つあります。一  
つは地域における効率的かつ質の  
高い医療を提供できるようにする  
こと。もう一つは地域包括ケアシ  
ステムの構築です。効率的で質の

高い医療を提供するために、都道  
府県は将来あるべき姿、地域医療  
構想（ビジョン）を示すことが定  
められました。具体的には病院を  
超急性期、急性期、回復期、慢性  
期に機能分化し、その地域の実情  
に合わせて急性期病院は何床、慢  
性期病院は何床というように病院  
のベッド数を決めていくことです。

高齢者医療に深く関係する慢性  
期病院のベッドについて政府は削  
減の方針を示しています。この背  
景には最終目標である地域包括ケ  
アシステムの構築があります。病  
院中心だった医療を介護福祉との  
連携で、住み慣れた地域で安心し  
て生活できるようにする、地域完  
結型モデルに転換することです。  
つまり慢性期病院のベッド削減は  
在宅医療介護の環境整備がセット  
となっていることです。

しかし在宅療養には多くの課題  
があります。自宅以外でも療養で  
きる住宅の確保、高齢者の一人暮  
らし、老老介護、勤労世代の子供

と同居等家庭内での介護能力の低  
下、家族の介護負担、往診やもし  
もの時に入院させてくれる病院な  
ど在宅医療をサポートする医療機  
関の整備、認知症対応、介護人材  
不足、関係医療、介護、行政、住  
民連携の構築などです。これらの  
課題を解決せずベッド削減を行う  
ことは介護医療難民を作り出しか  
ねません。

今年十年後の高齢社会に備え  
て改革の元年です。これらの課題  
にじっくり向き合い、対応してい  
く必要があります。これら課題へ  
の対応の基本的考えは、高齢社会  
の実現、高齢者が幸福な社会を目  
指すという医療法人ピーアイエー  
の理念と同じものです。

当院は今までと同様幸齢社会実  
現のため、慢性期入院医療、認知  
症医療、在宅療養を支援する病院  
としての役割を果たしていきたい  
と思います。

本年も引き続き安全で質の高い  
医療、介護を提供し、地域の皆さ  
まから医療法人ピーアイエーがこ  
こにあつてよかったと言われるよ  
う、職員一同邁進してまいります  
のでよろしくお願ひ申し上げます。

ナカムラ病院

院長 塚野 健

### 観音西小学校見学

平成二十七年九月十八日、社会見学のため、五日市観音西小学校三年生の児童二十五名が当院を訪れました。まずは副理事長の中村医師から挨拶があり、続いて内科の稲田医師から、レントゲン写真からわかる病気の診断について、わかりやすく説明がありました。みんな真剣な眼差しで医師の説明を聞いていました。

それから、医師の白衣を試着し、友達の胸に聴診器を当てて心臓の音を聞き合う、ミニドクター体験もして、「聞こえたくドクドクしとるよ!」と、部屋中に笑顔の花が咲きました。日頃体験できない事をぜひ体験してほしいという、当院の想いが伝わったようです。その後、二班に分かれて病院の中を見学しました。中でも、好評だったのが屋上です。自分の住む地域、小学校も一望できて、嬉しかったようです。見学後は、積極的にさまざまな質問がありました。児童たちは元気よく挨拶もできて、引率の先生の言うことをしっかり聞いて、院内では静かに過ご

すことができました。私たちは、好奇心いっぱいの子供たちにたくさんのパワーをもらいました。

今回の見学を通して、児童のみなさんが生活する地域に当院があるということを知ってもらえたことを大変嬉しく思います。

これからも、社会見学など地域に貢献できる活動を積極的に行っていきたいと思えます。

地域連携センター

センター長補佐 中村 智子



◀初めてのミニドクター体験!!  
少し緊張気味です。



### 五日市高校インターシッブ

平成二十七年十月九日、五日市高校二年生が、職場体験研修に来訪されました。

前回に続き三回目となりましたが、毎回参加人数が増えており、この度は三十名の若人が参加されました。

医療や福祉に興味があり、将来の進路を考える機会にしたい、人生の先輩から直接学びたいということ、前回同様見学後希望職種毎で分かれ、担当職員よ

り業務の説明を受けていただきました。

午後からは現場実習となり、この度はハンドベルを病棟で患者さまに披露していただくなど、ゆったりとした温かい交流のひとつとなりました。

最後に、ひとりずつ一言実習を終えての感想を答えていただきましたが、「大変勉強になった」という感想が殆どでした。

当院での研修が、興味から希望、そして将来の職業となり、一人でも医療・福祉に携わる若者が増えていけばと思う今日この頃です。

地域連携センター

副センター長 小田 茂樹



緊張のハンドベル演奏を患者さまは温かく見守っておられました



リハビリ場面の体験で患者さまと風船バレーを行いました

シリーズ全4回

第4回

# 地域包括ケアシステムについて

## ～5つの構成要素 その②～

今回は、前号に続き地域包括ケアシステムの構成要素の「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」についてナカムラ病院地域連携センター副センター長 小田茂樹さんに紹介していただきました。

前回、地域包括ケアシステム5つの構成要素「すまいとすまい方」「生活支援・福祉サービス」についてご紹介いたしました。今回は残りの3つの要素についてご紹介いたします。

まず、残りの3つは何かと言いますと、「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」です。前号でご説明させていただいた植木鉢の土台である「すまい」そして土の部分の「生活支援・福祉サービス」それから、このような植木鉢である土台、養分を含んだ土があればこそ、初めて成り立つのが「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」となり、専門職による効果的な役目を果たすものと考えられます。

### ● 「医療・看護」

高齢者がその状態に応じて適切な医療機関の医療提供を受けることができる。

### ● 「介護・リハビリテーション」

高齢者に介護が必要になった場合、適切な介護を必要なときに受けることができる。

### ● 「保健・予防」

高齢者が要介護状態になるのを防ぐとともに、要介護状態に人が悪化するのを防ぎ、改善を図る。

疾病をかかえるなど介護が必要となっても、住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが必要とされています。厚生労働省においては、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を構築するための取り組みを推進しています。

医療機関やケアマネージャー、地域包括支援センターなど専門職が協働し、一人ひとりのニーズに応じ、「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」がマネジメントに基づいて提供されることとなりますが、専門職自体も、以前の「医療」「介護」「予防」に、「看護」「リハビリテーション」「保健」が加わる形となっており、サービスがより広く求められています。

例えば、看護師では、診療補助、退院支援や急変時対応、また看取りまで、医療と介護のつなぎ役として療養生活を支援していきます。また、リハビリテーションでは、自立支援に向けた生活の中でのリハビリを提供していきます。

最後に、現在の地域包括ケアシステムの「5つの構成要素」を見ますと、「すまいとすまい方」の下に更に受け皿が置かれています。その受け皿には「本人・家族の選択と心構え」という項目があるのが分かります。

これからの過ごし方については、終末期を含め選択可能なうちに家族と一緒に選んでおくことが、悔いのない人生を迎えるためには大切なことと言えるでしょう。



# 陽光の家通信

## 【秋祭り】

毎年恒例となりました、秋祭りを十一月三日に開催いたしました。昨年度からは、「植え付け」から「収穫」、「焼き芋」と、一年の行事として行っております。昔ながらの「すくも」を用いて、じっくりと焼き上げる方法は、入所者の方々にとっては懐かしく「もつと、芋を入れんさい。」「もう少し、時間置かんといけんよ。」と指導を得ることが多く、焼き芋の奥深さを勉強させていただきました。

また、若い職員にとってはスーパードで売られている焼き芋ではなく、一から手作りする焼き芋が新鮮に映りながらも、昔ながらの



文化を楽しく知ることが出来、みなさまの人生や風習に思いをほせている様子でした。今年育てたサツマイモは「安納芋」で、小さいながらもねっとりとした食感で、大変甘く好評でした。これからも、皆さまの生活歴や希望を一つ一つ確かめながら、毎日を充実できるように提案していきたいと思っております。

特別養護老人ホーム 陽光の家

介護主任 岩本 陽子



# 歯科の扉

～高齢者のお口の状況～



昨年9月に発表された総務省の資料によると、わが国の65歳以上の高齢者人口は3384万人で、総人口に占める割合は26.7%だそうです。実に4人に1人が高齢者の時代です。また、80歳以上の人口は1002万人で、初めて1000万人を超えました。

お口に目を向けると、8020達成者(80歳で20本以上の歯を有する人の割合)は38.3%であり、6年前の調査結果24.1%から増加しています。実に80歳の3人に1人が8020達成者です。私たちの病院・施設においても、たくさんの歯が残っている患者さまが増えてきています。歯が残っていると、咬む力も発揮できて良いのですが、むし歯や歯周病にかかりやすい状況が続くことになりま。私たちは、患者さまの快適な療養生活のために、今後も専門的口腔ケアを提供させていただきたいと考えております。

歯科医師 田地 豪

# つばい こぼれ話

紅葉狩り  
の巻



平成二十七年十一月九日、昼食をかねて宮島サーブスエリアへ紅葉狩りに出かけました。利用者さまはそれぞれオシャレをして嬉しそう。車に乗る足取りは軽く活気がありました。サーブスエリアに着くと小雨が降っていました。

が、鳥居まで傘をさして歩かれる利用者さまも数名おられ、紅葉を見て「きれいなね。」と感激されました。昼食は天丼。「美味いなね。」と召しあがるみなさまのお顔は普段と違ってまぶしうらやましい笑顔でした。「楽しかった。」「また行きたいね。」「次はどこへ連れて行ってくれるん？」と言われ、楽しく過ごされたことが嬉しくて今度はどこへでかけようかしらと思案中です。

グループホーム つばい

介護職 越智 智子

平成27年度

## 防災&amp;防火訓練



平成二十七年十一月十八日、防災&防火訓練を行いました。

防災訓練では、被害想定を震度六強、負傷者一名、屋外にガラス散乱の箇所あり、としました。続いて行った防火訓練は初参加者が多くリハール時から緊張感があり、内容の濃い訓練となりました。



ここで火災時に発生する煙・有毒ガスと防火扉・排煙窓との関係についてふれておきます。煙の広がる速さは横方向で一秒間に〇・三m〜〇・五m、縦方向では三m〜五mと言われています。階段に煙が侵入すると、視界が遮られパニックに陥るほか、煙を吸い込み人命の被害は増大します。そのため避難階段へ煙



を侵入させないよう、防火扉は主に階段手前に設置されているわけ

B棟建物では常時「閉」式の防火扉が、A棟建物とB棟ギャラリー周辺では常時「開」式の防火扉が多く、常時「開」式の防火扉は、同エリアの火災感知器の信号を受けると自動で閉まります。

煙の拡散防止に排煙窓も大きな役割を担っています。操作ボックスのボタンを押すと窓の上部が外側に倒れ、煙を外に追い出してくれます。

このように初期消火、避難誘導とともに、煙を「広げない・逃がす」防火扉、排煙窓を有効に活用しましょう。

大成有楽不動産株式会社

ナカムラ病院 管理事務所

常駐員 川崎 正敏

第56回

家

族

会



平成二十七年十二月五日に「立ち上がり・移乗介助のコツ」力任せはもう古い！らくらく介助法と

の介助方法について紹介をしました。それからご家族と一緒に二人一組となって介助方法の実習を行いました。最後に、実際に当院で利用している福祉用具（イーゾーグライド、フレックスボード、リフト）の使い方の説明と体験が行われました。

福祉用具の活用」と題して、第五十六回家族会をナカムラ病院大ホールにて開催しました。この度は、リハビリテーション科から「立ち上がり」と「移乗」という二つの行動に焦点を絞って、①介助する側・される側、どちらにも負担が少なく、自然な身体の動きを引き出しながら無理なく介助する方法について、②お互いに負担の少ない移乗の方法のひとつとして福祉用具の紹介も交えながら、良いケアへの取り組みについてご家族に紹介をしました。

まず、リハビリテーション科スタッフより、「実際にからだごと動く側の実演をしながら説明し、相互にとって無理のない動作で

ご家族だけではなく、施設や自宅仕事場面で介護に関わる方々が参加されており、皆さんの意識の高さや介護への切実な想いが伝わってくるようでした。終了後に「お世話になっていている病棟スタッフに教えていただけただけで、現状に合わせた介助が聞けてとても為になりました」「面会の時にも実行してみたいです」と笑顔で語ってくださったご家族が印象的でした。

これからも希望に沿えるようなテーマを取り上げて、皆さんの介護の一助となるような時間を作っていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

地域連携センター 塚本 瑠奈



# より良いケアを目指して Aケアの取り組み

かつてない超高齢化社会へと突入し、慢性期医療を提供するナカムラ病院もより一層高い医療・看護・介護が求められるようになる中、私たちは平成二十四年より外傷予防のための活動を始めました。

当初は、ケアをする際にけがをさせてしまうことのないように外傷予防のための研修を行うことが活動の中心で、活動メンバーも外傷予防の必要性が高いB1〜B4病棟の看護・介護主任とリハビリスタッフでした。しかし、研修で学んだことが現場で活かされず、模索を続けた結果、外傷を防ぐという視点を改め、より良いケアをするという目的で『Aケア』という名の下に取り組みすることにしました。『Aケア』とは、安心・安全・安楽の頭文字と広島弁の「良い」「ええ」にも絡めてA(ええ)ケアに取り組みするという意味です。Aケアを目指すならばと、昨年十一月からは全病棟・デイケアにぎや家・まいえと法人全体で活動しています。各病棟でAケアチームを中心に取り組んでい

くために、Aケアメンバーの研修を十月、十一月に実施しました。介助する側・される側お互いにとって、より負担の少ないケアを実現できるように実技練習を繰り返したり、福祉用具について学んだり、現場での各場面を想定した活発なディスカッションができ、実りある研修となりました。

また、取り組みを現場に落とし込んでいくために、多くの課題も実感できた貴重な機会でもありました。今後課題に取り組みつつ、職員一人ひとりが法人の理念である『幸齢社会』を目指し、患者さま・利用者さまに心を込めた看護・介護が出来るように頑張りたいと思います。

B4病棟 看護主任 青木 玲子

## Aケア基本目標

安心・安全・安楽なケアを提供するために

- ①患者さまに苦痛や不安を与えない
- ②力任せにしない
- ③抱え上げない
- ④安楽に寝る・座る

## 秋のお茶席



平成二十七年十一月十一・十二日にリハビリテーション科主催で『秋のお茶席』を開催致しました。

お茶席は、普段病室で過ごされている患者さまに少しでも季節を感じて頂きたいという思いから、毎年春と秋に開催しております。場所は、毎回面会の方にも気軽に立ち寄って頂けるよう、病院ギャラリーにて行っています。

秋らしい雰囲気を感じられるよう、職員が活けた山茶花や小菊、紅葉などで会場を飾り、『秋風』という銀杏をモチーフにしたお茶菓子を召し上がった方からは「きれいだね」、「おいしいね」と笑顔が多く見られました。また、御点前を近くでご覧になった方からは「懐

かしいね」、「私も習っていたよ」と昔を思い出す声も聞かれ、着物の職員と一緒に写真を撮られていた方もおられました。

今回もボランティアの方々のご協力や他部署との連携により、滞りなく行うことが出来ました。

次回は春に開催予定です。皆さまの笑顔がみられるよう頑張りますので、ご期待ください！

リハビリテーション科

言語聴覚士 長川加奈子



平成二十七年十一月にデイケアにぎや家のバスハイクがありました。例年までは湯来ロッジで足湯をするなどバスから降りることが多かったのですが、寒さが厳しいので今回は車窓から色づいた山々を見ることとなりました。車内では馴染みのある曲で皆さま盛り上がり、とても和やかな時間が流れていました。また、窓の外を眺め、針葉樹と落葉樹のコントラストや青空がきれいな様子に盛り上がりつつおられました。

湯来町に入ってから景色も変わり、紅葉が素晴らしく右を見たり左を見たりと忙しそうでした。

帰る頃には疲れて眠られている方もいましたが、体調を崩される方はおらず、楽しい雰囲気のまま帰ることができました。

病院に到着した後はお楽しみみの昼食。利用者さまと職員と一緒に弁当を食べ、各テーブルで会話が盛り上がりつつありました。

にぎや家では月に一回楽しい行事を行っており、今後も皆さまが楽しめるイベントを計画していきたいと考えています。

地域連携センター

にぎや家部門主任 中森 一宏

# いきいき行事だより

## デイケアバスハイク



## いきいき行事ダイジェスト

### 10月

- 秋の宮島バスハイク～宮島を参拝～(まいえ1)
- 秋を楽しもう(B7)
- 外食(つばい)
- ケーキバイキング(A3)
- 秋の運動会(まいえ2)
- 家族会(つばい)
- 玉入れ(B5)
- 誕生日会(まいえ1)
- 松茸ごはん作り(にぎや家)
- 昼食バイキング(まいえ2)
- 法話会(陽光の家)
- ボランティア・売店・書道クラブ・生花クラブ(陽光の家)
- 避難訓練(陽光の家)
- 物故者慰霊祭(陽光の家)

### 11月

- 法話会(リハビリ)
- 全国パーキンソン病友の会「げんきなこ」
- 風船バレーボール大会(A3)
- 紅葉狩り(つばい)
- 秋のお茶会(リハビリ)
- 蕎麦打ち(B7)
- スイートポテト作り(まいえ2)
- 地域推進会議(つばい)
- 昼食バイキング(まいえ1)
- 秋のバスハイク(にぎや家)
- 大正琴演奏会(全体行事)
- 11月の誕生会(まいえ1)
- 少し遅めの秋の大運動会(まいえ1)
- ケーキバイキング(B5・まいえ2)
- 焼きいも(陽光の家)
- 慰問(陽光の家)
- 法話会(教専寺支坊)(陽光の家)
- ボランティア・売店・書道クラブ(陽光の家)

### 12月

- 津軽三味線で行く年・くる年を迎える(A3)
- 大正琴演奏会(つばい)
- クリスマス会・歌声ユニット木の实様演奏会(まいえ2)
- クリスマス会(全体行事・B5・B7・つばい)
- X'mas & 忘年会(まいえ1)
- 昼食バイキング(まいえ2)
- 生花クラブ(陽光の家)
- 慰問(大正琴)(陽光の家)
- ボランティア・売店(陽光の家)
- 忘年会(陽光の家)
- 法話会(西楽寺)(陽光の家)
- ボランティア・なやみごと相談所(陽光の家)
- ボランティア・売店・書道クラブ(陽光の家)
- 慰問(そよ風)(陽光の家)



# ボランティアさん募集

囲碁・将棋の相手、園芸活動のサポートなど

- あなたの趣味、特技で利用者さまの生活に彩りを添えてください。個人もグループも歓迎いたします。
- 現在、生け花、詩吟、書道、フラワーアレンジメント教室の講師、お茶席、メイクアップ、ギャラリーの展示作業など、多くのボランティアの方々にご協力いただいています。

お問い合わせは…

**TEL 082-923-8333** (担当:中田)

## ピーアイエー理念

### 我々は幸齢社会を創ります

我々は、今後増大する高齢者の医療、福祉の要望や要請に対応したサービスを創造する社会的使命を自覚し、精神的、肉体的苦痛や負担を軽減し、安心して残りの人生を幸福に送って頂ける環境とサービスの創造と提供を行います。

## 看護・介護の理念

我々看護・介護職は、患者さまの自立を目標に精神的、肉体的苦痛を軽減し、尊厳を持って安心・安全な療養生活ができる看護・介護を提供します。



今年も新年恒例のカレンダー展を企画しました。  
二〇〇二年に立ち上げたカレンダー展も十五回目を迎えることとなりました。  
今年には皆様から寄せられたカレンダーを選んで展示する従来型の展示に加え、日本の昔の時代の子どもの



# カレンダー展

2016年

姿をモチーフにした「童子画カレンダー」と「年賀状コーナー」を特設し、古き我が国の伝統と新しい時代の生き方を併想していただく場といたしました。  
ご希望の方には例年通り新年の贈り物としてカレンダーを贈呈させていただきます。  
期間中、我が国の古い文化を紹介するコーナーも創設し、新しい年に希望と夢を抱いていただき、新年を明るく良い年にしてください。  
PIAギャラリー  
顧問 赤木 博典



新年あけましておめでとうございます。  
私は昨年、社会人四年目を迎え、初めて実習生の指導を担当しました。人に伝えることの難しさを痛感した日々でした。この貴重な経験を生かして、今年も一年精進して参りたいと思います。  
本年もよろしく  
お願いいたします。(M)

## 編集後記



平成28年 2月 ▶ 4月

今後の予定 ※展示内容は一部変更する場合があります。

展示場所	期間・内容
第一展示コーナー	2月上旬 ▶ 4月下旬 「第10回 何歳でも描けますよ展」 赤・青・黄・白で描く キミコ方式による水彩画と彫塑
第二展示コーナー	2月上旬 ▶ 4月下旬 末永壽美男 水彩画展 -山路を行く-